

総合基礎科目	協働的医療実践の基礎					
看護学科	必修	2単位	講義	平成30年度	後期	3年次
臨床検査学科	選択					
科目名	障がい論					
担当教員	◎岡本響子 野崎泰伸					
目的	障害者問題が社会の問題であるとはどのようなことかについて学ぶ					
目標	障害学の基礎的な知識を学習します。これまで、障害者は医療や福祉や心理学、あるいは特別な教育の対象として扱われてきました。しかし、障害者はそれ以外のときでも生きています。本講義では、障害者のリアルな生活実態や、障害者が置かれてきた歴史を学びつつ、障害があろうがなかろうが関係なく暮らしていけるにはどのような社会が望ましいかを考えていきます。また、具体的な事例などをもとに障害者問題を人権問題や差別論として考える視座を養っていきます。					
他科目との関連	心理学 臨床心理学 社会福祉原論 精神看護学概論 精神看護学実践論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	総合的評価を目的として筆記試験を行う				0.5
	レポート	授業中に指示します				0.5
	その他	グループワークの完成度をレポート点に加味する				
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書						
参考資料	安積純子ほか『生の技法——家と施設を出て暮らす障害者の社会学（第3版）』（生活書院） 野崎泰伸『「共倒れ」社会を超えて——生の無条件の肯定へ!』（筑摩書房） 玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて学ぶ生命倫理——生・老・病・死を考える』（有斐閣） 天田城介・渡辺克典編『大震災の生存学』（青弓社） 授業中にも資料を配布します。					
備考 (受講上注意、 事前学習等)						